

## 2019年度からの新しい規則に提案された主要変更点の解説（要約）

狙い：複雑で難解なゴルフルールをシンプルかつ理解しやすくし、かつプレーの進行も早くする。

| 規則番号     | エチケット・マナー&プレー進行  |   |  |
|----------|--|---|--|
|          | 項目   | 現行ルール、問題点   | 変更案  |
| 1.2      | 期待されるプレーヤーの行動基準  | エチケット違反の意味や罰則が曖昧。(競技委員会の裁量。)                          | 重大なエチケット違反を非行とし、罰則は「競技失格」を明確にする。                         |
| 1.2b     | プレーヤーの行動規範   | 軽微なエチケット違反に適切な罰則がない。                                  | 競技委員会が軽微なエチケット違反に対し、1打や2打等の罰を設定出来る。                      |
| 5.6      | 速やかなプレーのペースの奨励   | 「不当な遅延」は禁止されているが具体的にどうすべきかは曖昧。                        | ストロークの事前準備、プレー可能になったら40秒以内にストローク、委員会がプレーペースを決める等、具体化する。  |
| 21       | ストロークプレーの形式「最大スコア」   | すべてのホールを完全ホールアウトしないと失格。(所謂ピックアップ、ギブアップは無し。)           | ホールによりプレー続行、ホールアウトが無理な場合、最大スコア10等を設定、次のホールへと進める。         |
| 《共通》     | 球を拾い上げるプレーヤーの意思を告げる要件を廃止   | スルーザグリーンで自分の球をピックアップするときは同伴者への告知と立ち合いが必要。             | 規則に従い適切に処理、ピックアップするならば同伴者への告知、立ち合いは不要。但し、違反の場合の1打罰は残る。   |
| スルーザグリーン |  |   |  |
| 1.3a     | 推定する、計測する場合の合理的な判断   | ホールとボールを結ぶ線上、ホールに近づかない位置等を決める際、僅かな誤差でもペナルティとなる。       | 後からのビデオ判定で漸く確認できるような範囲の誤差はペナルティ対象としない。(プレーヤーに有利となる誤差もOK) |
| 7.4      | 捜索中に動かされた球   | 深いラフ等の中で球を探しているとき誤って球を動かせば1打罰。                        | 球を動かしたことによる罰は廃止、球があったと推定される場所に置いてプレー。                    |
| 9.2      | なぜ球が動いたのかを決定する基準   | 球が動いた場合、プレーヤーが近くにいればプレーヤーが原因とした。(疑わしきは罰する。)           | 動かされた原因が95%程度の確からしきで特定できる場合をのぞき、それ以外は自然の力で動いたと判断する。      |
| 10.2     | 方向を決める援助のため後方にキャディーが立つ   | キャディーはストローク開始前に後方線上から離れる。                             | プレーヤーがスタンスを取った時点で後方線上から離れる。(早く離れる。)                      |
| 11.1     | 動いている球が偶然に方向を変えられる   | 自分自身やその携帯品に球が当たり方向が変われば1打罰。                           | 罰は無くなる。但し、歯止めとなる場所に携帯品を置いて当たれば1打罰。                       |
| 14.3     | 救済エリアから球をドロップしてプレーする場合の処置  | ドロップは肩の高さから。救済エリア(無罰:1クラブ、1打罰:2クラブ)から外に出れば再ドロップ後、プレー。 | ドロップは低くてもOK。救済エリアは無罰:20インチ、1打罰:80インチ。急斜面では止まる所にプレー。      |
| 16.3     | 地面にくい込んだ球の救済   | フェアウェイでのみ救済。但し、ローカルルールでスルーザグリーンに拡大可                   | スルーザグリーンで救済。但し、フェアウェイのみに限定可。                             |
| 18.2     | 球が紛失になるまでの捜索時間   | 球を探し始めて5分以内に見つからなければ紛失球。                              | 捜索時間を3分に短縮。暫定球をプレーすることの推奨。                               |
| 《共通》     | 計測に使用される一定の長さ(クラブレングスではない)   | 救済のクラブレングスを決めるクラブはドライバーでもウエッジでもOK。                    | 救済は1打罰が20インチ(50.8cm)、2打罰が80インチ(203.2cm)以内。               |
| 参考 URL   | ・JGA：ゴルフ規則・用具関連ニュース( <a href="http://www.jga.or.jp/jga/jsp/rules/news_detail_13185.html">http://www.jga.or.jp/jga/jsp/rules/news_detail_13185.html</a> )<br>・ゴルフ豆辞典：新ゴルフルール詳細版・動画入り( <a href="http://www.mamejiten.com/golf/diary/R/079.html">http://www.mamejiten.com/golf/diary/R/079.html</a> ) |   |  |

| パッティンググリーン上    |                                      |   |  |
|----------------|--------------------------------------|---|--|
| 8.1            | パッティンググリーン上のプレーの線に触れること              | 自分のパッティングラインには触れてはいけない。                             | 単に触れただけならば罰無し。但し、認められていないプレー線改善は不可。                        |
| 13.1b          | パッティンググリーン上の損傷の修理                    | ボールマークの修理は可。スパイクやピンでつけられた跡は修理不可。                    | すべての損傷の修理が可能になる。自然の不整、エアレーションは修理不可。                        |
| 13.1c<br>(1)   | パッティンググリーン上で球を動かしたことに對する罰はない         | プレーヤー自身が自分の球を動かす原因となった場合は1打罰。                       | 偶然に動かしたのであれば罰は無し。(グリーン外では偶然であっても1打罰。)                      |
| 13.1c<br>(2)   | パッティンググリーン上で動いた球をリプレースする場合           | プレーヤー、キャディ、局外者が動かしただけの場合はリプレース。風で動いた場合は止まった場所からプレー。 | 風で動いたときが変更、マーク前であればそのままプレー。マークに合わせリプレース後に風で動けば元の位置にリプレース。  |
| 13.2           | グリーンからプレーされた球がホールの中の付き添われていない旗竿に当たる  | 旗竿に当たった場合は2打罰、入ればホールアウト。弾かれれば止まった位置からプレー。           | 旗竿に当たっても無罰。タッグインの際に旗竿を抜く必要は無くなる。                           |
| 14.1           | キャディーがパッティンググリーン上で球を拾い上げる            | キャディーが球を拾い上げる際にはプレーヤーの承認がその都度必要。                    | キャディーはプレーヤーの承認なしでも球を拾い上げリプレースすることが出来る。                     |
| 14.2           | 元の地点が分からない場合に球をリプレースすること             | 規則に基づきリプレースのとき元の場所が特定できないとドロップになる。                  | 元の場所と推定されるところにドロップではなくプレーでOK。                              |
| バンカー、ウォーターハザード |                                      |   |  |
| 12.2           | バンカー内のルースインペディメントを動かす、触れる、または砂に触れること | バンカーでは手やクラブで砂やルースインペディメントに触れることは一切出来ず、状態のテストも出来ない。  | 手やクラブ、レーキで砂の状態をテストすることやアドレス、バックスイングのとき砂に触れることのみが禁止事項として残る。 |
| 17             | 「ウォーターハザード」に代わる「ペナルティエリア」の概念         | ラテラルウォーターハザード：赤杭、ウォーターハザード：黄杭と区別し異なる救済措置を決めていた。     | 「ペナルティエリア」を新設、ウォーターハザード、砂漠、溶岩地帯も含めて赤杭で表示する。救済措置は従来の赤杭と同じ。  |
| 17.1a          | ペナルティエリア内のルースインペディメントや地面に触れること       | バンカー同様水面、地面、ルースインペディメントに触れることは不可。                   | ルースインペディメント、水面、地面に触れることやクラブのソールが無罰になる。                     |
| 17.1c          | 赤い救済エリアに対する対岸の救済の廃止                  | ラテラルウォーターハザードでは最後に横切った地点と等距離の対岸から2クラブレンジ以内も選択可。     | 救済の選択肢としての対岸を廃止。但し、ローカルルールとして設定することは可。                     |
| 19.3           | バンカー内のアンプレヤブルの球                      | 球から2クラブレンジ、球とホールを結ぶ後方線上でバンカ内に、又は元の場所に戻ってドロップ。1打罰    | 球とホールを結ぶ後方線上でバンカー外にドロップできる選択肢を追加。この救済を受ける場合は2打罰となる。        |
| 用具、機器          |                                      |   |  |
| 4.1            | ラウンド中に損傷したクラブの使用と取り替え                | 通常使用で損傷したクラブは使い続けるかプレーに不適ならば交換可能。他の理由の損傷は使用不可。      | ラウンド中に損傷したクラブは理由によらず修理可能。交換不可。但し、他の人が壊した場合は交換可能。           |
| 4.2            | ホールのプレー中に損傷した球の取り替え                  | 切れ、ひび、変形が発生した球は同伴者の了解を得て交換。                         | 切れと割れが発生した球は同伴者の立会なしに交換可能。変形だけでは不可。                        |
| 4.3            | 距離計測機器の使用                            | 規則では不可。ローカルルールで可                                    | 規則で可。ローカルルールで不可は残す。  |
| 《共通》           | 救済を受ける場合、球の取り替えは常に許される               | 罰ありの救済(OB等)では交換可。罰無し救済は交換不可。                        | 罰の有無に拘わらず救済を受けるときは交換可。ドロップしてプレーするときも可。                     |